

## 附属機関等の会議の概要

附属機関等の名称	埼玉県農業水利審議会
所管担当課所名	農林部 農村整備課
担当名・電話番号	企画担当 ・ 048-830-4345
開催の日時	平成26年10月15日(水) 9時15分から15時10分
開催場所	<p>現地視察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域が主体となった簡易な基盤整備の取組み 惣新田地区(幸手市)</li> <li>・ みどりの学校ファームの取組み 宮代町立笠原小学校(宮代町)</li> <li>・ 畑で婚カツイベントの取組み 新しい村(宮代町)</li> </ul> <p>意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新しい村 村の集会所(宮代町)</li> </ul>
出席者 (五十音順)	<p>会長 井上 直子</p> <p>委員 新井 順子      委員 木村 紀美子</p> <p>委員 佐久間 明子    委員 中野 英幸</p> <p>委員 中村 好男      委員 水上 外美子</p>
会議の概要	<p>前回審議会(平成25年11月)で、平成20年2月に知事へ答申された「力強い農業を実現するほ場整備のあり方について」に対していただいた御意見を踏まえ、地域の実情に応じたその土地独自の簡易な基盤整備地区、次世代への継承に向けた取組み等を行っている現地を視察いただき、御意見を伺った。</p> <p>1 農林部長及び審議会会長 あいさつ</p> <p>2 審議会の内容 別添「埼玉県農業水利審議会の概要(平成26年10月15日開催)」のとおり、現地視察及び意見交換を行った。</p>

## 会議の概要

### 3 主な意見

- ・ 基盤整備のメリットは大規模農家に多いとの意見もあり、大規模農家や担い手から基盤整備を提案することは難しい状況にある。

農地の集約化を政策的に進めるため、県がリードすることも必要ではないか。

- ・ 農業の魅力を伝えて子供達を育てる教育を視察させていただいた。

農業者が育つまでには時間が掛かるため、実際に農業者になる方はまだ少ないようであるが、将来、日本の農業を守る子供たちが育ち、素晴らしい農業の国になるのではないかと感じた。

- ・ 地域の営農や基盤整備について、担い手の中からリーダーを発掘することが必要。

行政においても、県と市町村が協力して担い手の中からリーダーを発掘し、支援することが必要と感じる。

- ・ 地域の状況は異なるのに、日本全国で画一的な施策を行おうとすることには問題があると思われる。

- ・ 米価低迷の中、土地改良区の自助努力により経常賦課金を下げる等、地域への還元を検討することも必要ではないか。

- ・ 地域で頑張る人に報いるような制度ができれば良いと考える。行政も縦割りではなく横断的に知恵を出し取り組んでいただきたい。

### 4 今後の対応

前回及び今回の審議会において、各委員から出された平成20年2月答申「力強い農業を実現するほ場整備のあり方について」に対する御意見を踏まえ、意見の取りまとめを行う。